慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ゴンクール＝ロダン未公開往復書簡集 (1) ゴンクールからの手紙
Sub Title	Correspondance Goncourt-Rodin (1) lettres que Goncourt adressa à Rodin
Author	山本, 武男(Yamamoto, Takeo)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2019
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 言語・ 文化・ コミュニケーション (Keio University Hiyoshi review. Language, culture and communication). No.51 (2019.) ,p.71- 88
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032394-20191231-0071

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ゴンクール＝ロダン未公開往復書簡集（1）
ゴンクールからの手紙

山本　武男

はじめに

フランスの文豪エドモン・ド・ゴンクール（1822 ～ 1896 年）と「近代彫刻の父」オーギュスト・ロダン（1840 ～ 1917 年）の間の往復書簡は，フランスでも日本でも，これまで一部を除き，公開されて来なかった。ゴンクールからの書簡は，パリのロダン美術館に，ロダンからの手紙はパリのフランス国立図書館に保管されている。本稿ではまず，ゴンクールからロダンに宛てた書簡類を分類，検証する。

それらは，三つの種類に分類できる。一つ目は，ゴンクールが自身の著書をロダンに進呈した際の，書籍前扉右上の献辞である。そこには，年長のゴンクールが文学者としての自身の仕事と才能を，友情と敬意を以て，後進の大彫刻家ロダンに示し，交歓したい思いが見て取れよう。二つ目は，普通の手紙で，その中の一枚には，ゴンクールがロダンに発注したデッサンの仕事に就いて書かれている。ロダンの芸術的才能への深い尊敬の念が感じられる。三つめは，名刺に書かれたメッセージで，ゴンクールの小説を原作にした演劇の招待券を送付した件，ゴンクール宅でのサロン開催のお知らせ等がその主な内容である。総じて，ゴンクールからロダンへの書簡等から感じ取られるのは，尊敬する年少の大芸術家に対する，ゴンクールからの適度な距離感と，友情である。

以下，各種書簡類のより具体的な中身の検証を行い，然る後，原典の訳を記す。三種類の書簡類でそれを行った後，フランス語の原文を掲げる。また，ゴンクールに捧げられた大宴会の招待状や，ゴンクール没後のコレクション売り立ての際の案内状等もロダン美術館には保管されており，それらの訳と原文も，各々上記の訳と原文の後に掲げる。

献辞

まず，ゴンクールがロダンに献じた著書で圧倒的に目を引くのが，有名な『ゴンクールの日記』である。第一巻から，第四巻を除き，第九巻まで贈られている。『日記』は初版の段階では九冊に分かれて出版された為，シャルパンティエ書店から新刊として出版される度に献じたものと考えられる。まずここで，各巻の発行年月日を，確認しておきたい。第一巻，1887 年 3

月 3 日刊，第二巻，1887 年 10 月 21 日刊，第三巻，1888 年 4 月 24 日刊，第四巻，1890 年 10 日 6 日刊，第五巻，1891 年 2 月刊，第六巻，1892 年 2 月 23 日刊，第七巻，1894 年 6 月 23 日刊，第八巻，1895 年 5 月 8 日刊，第九巻，1896 年 5 月 26 日刊，となる[1)]。エドモン・ド・ゴンクールが永眠するのが 1896 年 7 月 16 日なので，最晩年に至るまで，ロダンとの交流が為されていたことが分かる。

ゴンクールがロダンに進呈した，他の著書も見てみよう。それらは，発行年順に『ガヴァルニ，人と作品』（シャルパンティエ書店，1879 年刊），『文学宣言序文集』（シャルパンティエ書店，1888 年刊），『美術研究』（フラマリオン書店，1893 年刊），『過ぎし日のイタリア』（シャルパンティエ書店，1894 年刊），『北斎』（シャルパンティエ書店，1896 年）である。『ゴンクールの日記』に於いて初めてロダンの名が登場し，二人の交流が描き出されるのが，1886 年 4 月 17 日（土）の箇所である。また，フランス国立図書館に保管されているロダンからゴンクールに宛てた書簡の最初の日付が 1886 年 2 月となっていることからも，この年辺りから二人の本格的な交流が始まったとも推測され得る。

そこで気になるのが，『ガヴァルニ，人と作品』である。他の献辞付きの著書に比べ，本作のみ発行年が 1886 年より前である許りか，大きく隔たっている。『ガヴァルニ，人と作品』は，ゴンクール兄弟（弟ジュール，1820 ～ 1870 年）が共同執筆した著作のうち，一番最後に刊行された著作で，初版は 1873 年，プロン社から出版されており[2)]，エドモンがロダンに贈った本作は再版である。当献呈本は，ロダンが『日記』に登場する時分よりかなり遡っていることもあり，ゴンクールが，敢えて，新刊ではない本書をロダンに贈ったと考えることが可能であろう。エドモンは，兄弟で交流があり，尊敬していた，バルザックの小説に挿絵を描いた画家ガヴァルニの評伝を，同じ芸術家ということで，敬愛する大彫刻家ロダンに献じたとしても，不思議ではないであろう。ゴンクールの芸術家への敬意を示す意味合いがあったのではないか。さて，以下に献辞の訳を，上に記述した順番に記す。括弧内がゴンクールの献辞である。

1. 『日記』，第一巻（1851 ～ 1861 年），前扉右上に記述
「ロダンへ
友情の印に
エドモン・ド・ゴンクール」

2. 『日記』，第二巻（1862 ～ 1865 年），前扉右上に記述

1） 発行年月日は，以下を参照した。Edmond et Jules de Goncourt, *Journal, mémoires de la vie littéraire*, Robert Laffont, coll. Bouquins, 1989, t. I, p. CIV-CXIV.

2） 以下を参照した。Edmond et Jules de Goncourt, *Germinie Lacerteux*, éd. Nadine Satiat, Flammarion, 1990, p. 296 : « *Gavarni, l'Homme et l'Œuvre*, Paris, Plon, 1873, in-8° ».

「ロダンへ
友情の印に
エドモン・ド・ゴンクール」

3.『日記』，第三巻（1866 ～ 1870 年），前扉右上に記述
「ロダンへ
友情の印に
エドモン・ド・ゴンクール」

4.『日記』，第五巻（1872 ～ 1877 年），前扉右上に記述
「ロダンへ
深い友情を込めて
エドモン・ド・ゴンクール」

5.『日記』，第六巻（1878 ～ 1884 年），前扉右上に記述
「ロダンへ
切に好意を込めて
エドモン・ド・ゴンクール」

6.『日記』，第七巻（1885 ～ 1888 年），前扉右上に記述
「ロダンへ
深い友情を込めて
エドモン・ド・ゴンクール」

7.『日記』，第八巻（1889 ～ 1891 年），前扉右上に記述
「ロダンへ
深い友情を込めて
エドモン・ド・ゴンクール」

8.『日記』，第九巻（1892 ～ 1895 年），前扉右上に記述
「ロダンへ
友情の印に
エドモン・ド・ゴンクール」

9. 『ガヴァルニ，人と作品』，前扉右上に記述
「彫刻家ロダンへ
芸術家的作家からの感謝と，賛美の証として。
エドモン・ド・ゴンクール」

10. 『文学宣言序文集』，前扉右上に記述
「ロダンへ
親愛の印に
エドモン・ド・ゴンクール」

11. 『美術研究』，前扉右上に記述
「ロダンへ
友情の印に
エドモン・ド・ゴンクール」

12. 『過ぎし日のイタリア』，前扉右上に記述
「ロダンへ
深い友情を込めて
エドモン・ド・ゴンクール」

13. 『北斎』，前扉右上に記述
「ロダンへ
深い友情を込めて
エドモン・ド・ゴンクール」

書簡

ゴンクールがロダンに宛てた書簡は三通，ロダン美術館に保存されており，そのうちの一通は，1892 年 1 月の日付の入ったものだが，ゴンクールの直筆ではなく写しである。誰が写したものかは不明だが，その筆跡からはロダン自身と推察される。その二枚からなる手紙の写しの一枚目の冒頭に，「1907 年 8 月 25 日に，リヨン市長エリオ氏に進呈したエドモン・ド・ゴンクールからロダンへの手紙」との記述が，手紙本文に先立って記されており，そこから当時のリヨン市長から乞われてエドモン直筆の手紙を譲り，ロダンは手元にその写しを残したのだと考えられる。

時のリヨン市長エドゥアール・エリオ[3]は，政治の傍ら政治評論，文学評論なども多数残した文筆家で，ロダンを介し，文豪の直筆を欲したものと考えられよう。その書簡の写しの内容は，ゴンクールがそのパリ北西郊外（今日はパリ市内），オートゥイユの自宅の蔵書で，同時代の作家たちの書物の表紙に同時代の芸術家の手になる，その書物の著者の肖像画を載せた豪華本を作っていたことと関連して，この度，ロダンに小説家オクターヴ・ミルボー[4]の本の表紙を依頼している件に関したものである。デッサンで二つ，ミルボーの肖像を描いて欲しいと依頼している。描く場所は，ミルボーの別荘になる筈であったが，そうならず，彼の自宅になるかもしれない，といった肖像画の制作場所に就いても触れられている。ロダンがミルボーを前にして創作する予定であったことが窺われる。

この肖像画が表紙に載ったミルボーの著書は『ゴンクールの日記』の 1894 年 12 月 14 日（金）の記述と符合する。『日記』のこの箇所には，エドモンがオートゥイユの自宅に飾っていたコレクションが描写されていて，十八世紀の日本美術やフランス美術を始め，上記の蔵書の豪華本も多数紹介されている。ミルボーの書籍については，こうある。「『セバスティアン・ロック』一部の上のロダンによるペン画のミルボー像（1894 年制作），二つの横顔と，正面からの肖像画一つ，その構成はさすがは偉大な粘土の塑像家によるもの。」この書物に描かれた肖像画が，上記書簡で依頼されているものと同一なら，制作時期が可成りずれ込み，また，肖像画は二つではなく，三つ描かれたことになる。同一のものだとして，そういった変化があったとしても不自然ではなかろう。なお，『セバスティアン・ロック』は 1890 年刊のミルボーの長編小説[5]である。

二通目であるが，こちらは直筆で，上記書簡と同じ 1894 年で, 5 月 22 日の日付が入っている。内容は，ゴンクールの体調がすぐれない旨が率直に書かれており，ロダンに会うことが出来ないのを残念がっている。この手紙からは，二人の気の置けない交友関係が窺われる。

最後の一通は，1896 年 2 月 9 日付けの書簡で，それによればこの時期，ロダンが自作のエッチングをゴンクールにプレゼントしたことが分かる。そして感銘を受けたゴンクールは，そのお礼に，コレクションの豪華本の中の一冊を進呈すると申し出ている。また，春が来たら画家フェリックス・ブラクモン[6]が熱っぽく語るのを聞いたロダンの『地獄の門』を見に行きたいと書いている。1896 年と言えばエドモンが 7 月 16 日に永眠する年だが，7 月 3 日（金）付の箇所まで『日記』を書き記しており，亡くなる月まで文筆活動も，交友も続けていた。だが『日記』の 1896 年の箇所に『地獄の門』を見に言った記述は見られない為，その願いを叶えたかどうかは定かではない。以下に，三通の書簡の訳を記す。

3） Édouard Herriot (1872–1957).

4） Octave Mirbeau (1848–1917).

5） Octave Mirbeau, *Sébastien Roch*, Charpentier, 1890.

6） Félix Bracquemond (1833–1914).

1.「1907年8月25日に，リヨン市長エリオ氏に進呈したエドモン・ド・ゴンクールからロダンへの手紙

シャンロゼにて　　1992年7月
ドラヴェイユ経由
(セーヌ・エ・オワーズ県)

我が親愛なるロダンへ

ミルボーの本の件ですが，その表紙にこの我らが友の肖像をお描き頂くことになっていますけれども，彼は，自身の別荘で描いて頂く心算でそのことを私に依頼してきましたが，その本は未だミルボーの自宅にあります。

今回は，以前，ご依頼したことのあるエッチングでは御座いません。ご制作頂くのはデッサンでして，ペン，黒色クレヨン，淡彩等，お好きな手法で，象牙色の犢皮装丁の本の表紙の平の上にお願いします。貴兄のエッチングによるユーゴー像式に，ミルボーの顔を二つ，素描で描くというのは，およそ独創的と言いえましょう。という訳で，ミルボーの家に行かれないということでしたら，彼に本を貴兄の所まで届けさせてください。

私の厚かましいお願いを貴兄が覚えていてくださったことに深く感銘致しており，また私のささやかな蔵書の装丁者の中に，貴兄の名を得ることは誠に嬉しく，光栄なことであります。

友情を込めて
エドモン・ド・ゴンクール」

2.「　　1994年5月22日

我が親愛なるロダンへ

まったく，体調は良くなっておらず，相当弱っておりまして，自分の家から，一週間にわたって，外に出られないのではないかと心配しております。

貴兄にお目に掛かれないのが残念ですが，目下のところ，疲労困憊致しております。

友情を込めて
エドモン・ド・ゴンクール」

3.「　　1886年2月9日

拝啓

貴兄のお陰で大変喜んでおり，お礼申し上げます。―貴兄のエッチングは，私の知らなかった類の，力強さと繊細さの小さな奇蹟とも思えるもので，感銘を受けました……引き換えに，ある友人を偲んで制作した芸術本をお送りすることをお許し願えますか，そしてまた気候が穏やかになりましたら，ブラクモンが私に甚く感動して話してくれた貴兄の門を，見に行くこともお許し頂けますでしょうか。

再びお礼申し上げつつ。

敬具

エドモン・ド・ゴンクール」

名刺

名詞は十三枚，ロダン美術館に保管されている。日付は付されていず，それを入れていたと考えられる封筒も当所に保管されていない為，消印がなく日付は確認できない。しかし，名詞には「エドモン・ド・ゴンクール」という氏名を中心に，右下には自宅の住所が記されており，そのオートゥイユのモンモランシー大通りの番地付けが，1890年2月15日を境に変わる[7]為，番地によって上記の日付より前か後かを判断することが出来る。同じ土地ながら，53番地から67番地へと変更されるのである。従って以下には，この二つの番地に拠って名刺の書かれた時期を二分するが，一枚一枚の書かれた順序は，可能な場合は内容からの推測によって並べる。内容は，ゴンクールの自宅に於ける文藝サロン「グルニエ（屋根裏部屋の意）」開催の通知が目立って多く，その他は，ゴンクールの小説を原作とした戯曲の入場券送付の際に同封されていたと推測されるものなどである。名詞からは「グルニエ」開催の曜日が日曜日が主であったことが印象付けられるが，土曜日にも開かれていたとも推察される。以下に，原文の訳を見て行く。

「モンモランシー大通り，53番地（オートゥイユ）」の記述がある名詞

1.「『ルネ・モプラン』の2日目の公演の券を2枚お送りします。初演用には18枚しか手持ち

7）以下のサイトを参照した。boulebard de Montmorency (9 juin 2008), *Recherche Oes rues de Paris*, Mairie de Paris, Paris. fr.

がありませんでした。（御不用であれば，）1枚お返しください。」
（兄弟の長編小説『ルネ・モプラン』（1864年刊）は，小説家にして劇作家のアンリ・セアール[8]による戯曲化で，1887年4月15日に，パリのオデオン座で初演が行われた[9]。）

2.「『ジェルミニー・ラセルトゥ』の2日目の公演の1階前部の席一人分を，お送りします，ご覧になれない場合には，券を私までお戻しください。」
（兄弟の長編小説『ジェルミニー・ラセルトゥ』（1864年刊）は，エドモン・ド・ゴンクール本人の手によって戯曲化され，1888年12月18日にパリのオデオン座で初演が行われた[10]。）

3.「日曜日に。」

4.「日曜日に。」

5.「グルニエ再開は10月14日です。」

6.「そうです，土曜日の2時に，お待ちしています。」
『親しき友よ，これがゴンクールの返事ですので，よって我々は13時ごろ貴兄の家に参ります—貴兄のご都合が悪くさえなければ，です。不都合がない限り，お返事無用です。
L.D.』
（二重鉤括弧内は，ゴンクールではない人物によって，ゴンクールの文章の上下に書き込まれている。署名のL.D.は実際にはLとDを重ねる様にして書いており，ピリオドは一つであるが，この頭文字から，ゴンクールのサロンの客であったレオン・ドーデー[11]（アルフォンス・ドーデーの長男）ではないかと推測される。何れにせよ，ゴンクールの名刺を署名の人物が仲介したということであろう。その仲介者がレオン・ドーデーなら，「我々は」というのは，父であり，ゴンクールの親友のアルフォンスと共に，という意味ともとれる。）

7.「貴兄に，その偉人の祝詞をその儘お返し致します、偉人よ—そして心より親愛の情を込めて。」

8.「我が心よりの祝詞と共に—ドーデーが，貴兄の門の虜になっています。」

8） Henry Céard (1851–1924).
9） Edmond et Jules de Goncourt, *Journal, mémoires de la vie littéraire, op. cit.*, t. I, p. CIV参照。
10） *Ibid.*, p. CVI参照。
11） Léon Daudet (1867–1942).

9.「友情を込めて，心からの祝詞を送ります。」

「モンモランシー大通り，67 番地（オートゥイユ）」の記述がある名詞

10.「グルニエの再開は 11 月 8 日です。」

11.「「グルニエ」の再開は 12 日（日）です。」
（『ゴンクールの日記』の 1893 年 11 月 12 日（日）付の箇所に，「グルニエ」を再開した際の模様が記されている。よって当名刺は，その日の案内状であるかもしれない。ただし『日記』の当箇所にロダンの名は見られない。）

12.「「グルニエ」の再開は，11 月 11 日（日）です。」
（『ゴンクールの日記』の 1894 年 11 月 11 日（日）付の箇所に，「グルニエ」を開催した際の模様が記されている。だが，ロダンの名は見られない。）

13.「11 月 10 日（日），「グルニエ」を再開します。」
（『ゴンクールの日記』の 1895 年 11 月 10 日（日）付の箇所に，「グルニエ」を再開した際の模様が記されている。だが，ロダンの名は見られない。この時分，ロダンは誘われても余りゴンクールの文藝サロンに参加していなかった可能性がある。）

その他の書類

ロダン美術館には，上述のゴンクールからロダンへの書簡類の他に，1895 年 3 月 1 日（金）に，パリのオペラ座のガルニエ宮近くの高級ホテル「グラン＝トテル」（1862 年 5 月 5 日，ナポレオン 3 世の妃ユージェニーにより落成式が執り行われた[12]）にて開催された「ゴンクールに捧げる饗宴」の案内状や，ゴンクール没後に行われたそのコレクションの競売や，それに先立つ展示会への案内状が保管されている。それらは年号が入っていないものもエドモン没年の翌年，1897 年の開催と考えられる。この年にゴンクール所有の品々の売り立てが，次々と行なわれたからである[13]。以下に書類の訳を記す。

12） 以下のサイトを参照した。*InterContinental Paris le Grand*, « Les grands moments d'un hôtel historique à Paris Un hôtel de légende depuis 1862 » (https://parislegrand.intercontinental.com/fr/histoire/).

13） 以下の売り立ては、全てパリで行われた。*Objets d'art et d'ameublement du XVIIIe siècle* (22–24 février 1897), *Collection des Goncourt. Objets d'art du XVIIIe siècle* (22–24 février 1897), *Collection des Goncourt. Arts de l'Extrême-Orient* (8–13 mars 1897), *Bibliothèque des Goncourt* (29 mars-3 avril 1897) : 以上は*BnF catalogue général*（フランス国立図書館のサイト上の総合カタログ）（https://parislegrand.

ゴンクールに捧げる饗宴の案内状

1.「友人並びに賛美者たちによってエドモン・ド・ゴンクールに捧げられる饗宴は，グラン＝トテルにて，3月1日金曜日，7時半よりの開催に最終的に延期されました。」（全文印刷）

2.「ロダン先生（ここのみ筆記，以下印刷）
エドモン・ド・ゴンクールに捧ぐ宴
1895年3月1日」
（印刷された会場の配置図が，上記の文字の下で，用紙の大部分を占める形で描かれ，櫛状に上部のテーブルに繋げられた，櫛の歯状に下に突き出たテーブルの左からA，B，C，D列があり，更にA列とD列の外側に手書きで上部のテーブルも延長させ，そこに繋げられる形で，左右に2列のテーブルが，櫛の歯状に付け加えられている。B列の上方への延長上の，上部のテーブルを飛び越えた少し上に，濃紺の✖印があり，ロダンの席がそこにあるという意味と取れる。櫛状のテーブル配置を上部で結び付けているテーブルは貴賓席とも考えられ，中央に主賓ゴンクールが座るとすると，その右隣辺りにロダンの席が設けられていたものと推測される。）

ゴンクール没後のコレクション売り立ての案内状

1.「競売吏デュシェヌ氏，並びに鑑定人フェラル父子両氏は，ロダン（ここのみ筆記，その他は印刷）氏にご挨拶申し上げ，謹んでゴンクール・コレクションを構成する十八世紀デッサンの内輪の展示会ご訪問の為の本招待状をお送り致します。

この内輪の展示会は，2月13日（土）と14日（日）の午前9時から正午まで，オテル・ドルオ，9，10，11号室にて開催されます（グランジュ＝バトリエール街の専用の入口よりご入場ください）。

競売吏，G・ドュシェヌ
鑑定人フェラル父子」

2.「競売吏デュシェヌ氏，並びに鑑定人S・ビング氏は，ロダン（ここのみ筆記，その他は印

intercontinental.com/fr/histoire/）を参照した。

刷）氏にご挨拶申し上げ，謹んでゴンクール・コレクションを構成する極東美術工芸品の内輪の展示会ご訪問の為の本招待状をお送り致します。

この内輪の展示会は2月28日（日）と3月1日（月）の2時から5時まで，プロヴァンス街22番地のS・ビング氏のギャラリーにて開催の予定です。」

3.「エスクリーブ氏の後任競売吏，
ジョルジュ・デュシェヌ
パリ，アノヴォール街，6番地

1897年6月11日

拝啓

ド・ゴンクール氏の家に残されていた家具や置物の競売が，競売場3号室にて，今月，6月19日（土），2時に開催されます。

敬具

アドリアン＝ジャン・ボルグ」

（上記案内状は，下線部のみ印刷，他は手書き。）

フランス語原文

EDMOND DE GONCOURT À AUGUSTE RODIN

DÉDICACES

1. *Journal des Goncourt –Mémoires de la vie littéraire–*, Premier volume (1851–1861)
(Charpentier, 1887)
« À Rodin
Souvenir amical
Edmond de Goncourt »

2. *Journal des Goncourt –Mémoires de la vie littéraire–*, Deuxième volume (1862–1865)
(Charpentier, 1887)
« À Rodin
Souvenir amical
Edmond de Goncourt »

3. Journal des Goncourt –Mémoires de la vie littéraire–, Troisième volume (1866–1870)
(Charpentier, 1888)
« À Rodin
Souvenir amical
Edmond de Goncourt »

4. *Journal des Goncourt –Mémoires de la vie littéraire–*, Tome cinquième (1872–1877)
(Charpentier, 1891[14])
« À Rodin
Bien amicalement
Edmond de Goncourt »

5. *Journal des Goncourt –Mémoires de la vie littéraire–*, Tome sixième (1878–1884)
(Charpentier, 1892)
« À Rodin
Bien sympathiquement
Edmond de Goncourt »

6. *Journal des Goncourt –Mémoires de la vie littéraire–*, Tome septième (1885–1888)
(Charpentier, 1894)
« À Rodin
Bien amicalement
Edmond de Goncourt »

7. *Journal des Goncourt –Mémoires de la vie littéraire–*, Tome huitième (1889–1891)

---

14) Le quatrième tome du *Journal* des Goncourt, que ne conserve pas le musée Rodin, est publié chez Charpentier en 1890.

(Charpentier, 1895)
« À Rodin
Bien amicalement
Edmond de Goncourt »

8. *Journal des Goncourt –Mémoires de la vie littéraire–*, Tome neuvième (1892–1895)
(Charpentier, 1896)
« À Rodin
Souvenir amical
Edmond de Goncourt »

9. *Gavarni, L'Homme et l'œuvre* (Charpentier, 1879)
« Au sculpteur Rodin
Remerciement et témoignage d'admiration d'un écrivain d'art.
Edmond de Goncourt »

10. *Préfaces et manifestes littéraires* (Charpentier, 1888)
« À Rodin
Souvenir affectueux
Edmond de Goncourt »

11. *Étude d'art* (Flammarion, 1893)
« À Rodin
Souvenir amical
Edmond de Goncourt »

12. *L'Italie d'hier* (Charpentier et Fasquelle, 1894)
« À Rodin
Bien amicalement
Edmond de Goncourt »

13. *Hokousaï* (Charpentier, 1896)
« À Rodin
Bien amicalement

Edmond de Goncourt »

LETTRES

1. « Lettre de Edmond de Goncourt à A. Rodin
Donnée le 25 août 1907 à M. Herriot
maire de Lyon.

Champrosay Juillet [19] 92
par Draveil
(Seine et oise)

Mon cher Rodin

Le livre de Mirbeau sur lequel vous voulez bien faire le portrait de notre ami, Mirbeau l'a chez lui, me l'ayant demandé dans la pensée que ce portrait vous le ferez à sa maison de campagne.

Maintenant ce n'est pas une eau-forte que je vous ai demandée. C'est un dessin que vous ferez comme vous voudrez, à la plume, au crayon noir, au lavis, sur le plat du livre relié en vélin ivoire. Ce serait peut-être original de faire deux croquetons de sa tête à l'instar de votre eau-forte de Hugo. Donc si vous n'allez pas chez Mirbeau demandez-lui de vous faire parvenir le volume.
Je suis bien touché que vous ayez gardé le souvenir de ma demande indiscrète, et je serais tout heureux et tout fier d'avoir votre nom parmi les illustrateurs de ma petite bibliothèque.

Mes amitiés
Edmond de Goncourt »

2. « 22 mai [19] 94

Mon cher Rodin.

Non ça ne va pas mieux et je suis dans un tel état de faiblesse que je crains ne pouvoir sortir – de toute la semaine – de chez moi.

J'ai regretté de ne pas vous apercevoir, mais dans le moment j'étais complètement tué.

Mes amitiés,

Edmond de Goncourt»

3. « 9 février［18］86

Monsieur

Vous m'avez fait un très grand plaisir et je vous en remercie. — J'avais été émerveillé de votre eau forte que je ne connaissais et que je trouve une petite merveille de puissance et de délicatesse … Voulez-vous me permettre de vous envoyer en échange un bouquin d'art consacré à la mémoire d'un ami et de vous demander la permission d'aller voir votre porte dont Bracquemond m'a parlé avec tant d'admiration, quand les temps seront plus cléments.

Agréez monsieur encore une fois avec mes remerciements, l'assurance de mes sentiments bien sympathiques.

Edmond de Goncourt »

CARTES DE VISITE

Cartes de visite avec les mentions imprimées: « EDMOND DE GONCOURT, *53, boulevard Montmorency (Auteuil)* »

1. «Je vous envoie deux billets pour la *2ème* de *Renée Mauperin*. Je n'en ai eu que 18 pour la première. Renvoi un[15] . »

2. « Je vous envoie un fauteuil d'orchestre pour la 2 ème représentation de *Germinie*, me renvoyer le billet du théâtre, si vous ne pouvez y aller［[16] .］»

15） *Renée Mauperin*, pièce de théâtre tirée du roman des Goncourt par Henry Céard, dont la première représentation eut lieu le 15 avril 1887 à Odéon: voir Edmond et Jules de Goncourt, *Journal, mémoires de la vie littéraire, op. cit.*, t.I, p. CIV.

16） *Germinie Lacerteux*, pièce de théâtre tirée du roman des Goncourt par Edmond lui-même, dont la première représentation eut lieu le 18 décembre 1888 à Odéon: voir *Ibid.*, p. CVI.

3. « À dimanche [.] »

4. « À dimanche [.] »

5. « Réouverture du grenier le 14 octobre. »

6. « Oui à samedi à 2 heures je vous attends. »
(«Voici cher ami la réponse de Goncourt, nous serons donc vers 13 h chez vous — à moins que vous n'ayez un inconvénient. Ne répondez pas à moins de contre-indications [.] L. D. [Léon Daudet (?)[17)]] »)

7. « Je vous les retourne ces souhaits, grand homme — et bien cordialement. »

8. « Avec mes bons souhaits — Daudet est dans l'admiration de votre porte [.] »

9. « Mes meilleurs souhaits avec mes amitiés. »

Cartes de visite avec les mentions imprimées: « EDMOND DE GONCOURT, *67, boulevard Montmorency (Auteuil)* »

10. « Réouverture du grenier le 8 novembre [.] »

11. « Réouverture du *Grenier* ce Dimanche 12[18)] . »

12. « Réouverture du *Grenier*, le dimanche 11 novembre [[19)] .] »

13. « Réouverture du *Grenier* dimanche 10 novembre [[20)] .] »

---

17) Une personne dont la signature est « L. D. » ajoute ce texte à celui de Goncourt. Quant à cette signature, en fait, la lettre de « L » et celle de « D » sont superposées, et elles sont suivies d'un point.

18) Voir Edmond et Jules de Goncourt, *Journal, mémoires de la vie littéraire*, *op.cit.*, t. III, p. 885 (Dimanche 12 novembre 1893) : « Réouverture du *Grenier*. »

19) Voir *ibid.*, p. 1030 (Dimanche 11 novembre 1894) : « Ouverture du *Grenier*. »

20) Voir *ibid.*, p. 1191 (Dimanche 10 novembre 1895) : « Réouverture du *Grenier* : [...] . »

DOCUMENTS[21)]

1. « *Le Banquet offert à Edmond de Goncourt par ses Amis et ses Admirateurs est irrévocablement remis au Vendredi 1er Mars, à 7 heures et demie, au Grand-Hôtel.* »

2. « Mre Rodin
Banquet offert à Edmond de Goncourt
1er Mars 1895. »
(Sous ces lettres et chiffres ci-dessus, un dessin de la composition de tables : la place de Rodin est indiquée par une croix bleu foncé.)

3. « ［1897］

Monsieur DUCHSNE, *Commissaire-Priseur et MM.* FÉRAL *père et fils, experts, présentent leurs salutations à M.* Rodin *et ont l'honneur de lui adresser la présente invitation à visiter l'Exposition privée des Dessins du XVIIIme siècle, composant la collection des* GONCOURT.

Cette Exposition privée aura lieu les Samedi 13 et Dimanche 14 Février, de 9 heures du matin à midi, Salle nos 9, 10 et 11 de l'Hôtel Drouot (Entrée par la porte réservée, rue Grange-Batelière).

G. DUCHESNE, Commissaire-Priseur.

FÉRAL, Père et fils, Experts. »

4. « *Georges Duchesne, Commissaire Priseur*
Successeur de M. Escribe
Rue de Hanovore, 6, à Paris
le 11 juin *18*97

21） Les lettres italiques sont celles qui sont imprimées.

Monsieur,

Je vous informe que la vente des meubles et objets qui étaient restés chez M. de Goncourt aura lieu le samedi 19 juin présent mois à 2 heures, salle n° 3 de l'hôtel des ventes.
Veuillez agréer mes salutations empressées

Adrien-Jean Borg »

5. « [1897]

Monsieur DUCHESNE, *Commissaire-Priseur et M. S.* BING, *expert, présentent leurs salutations à* M. Rodin *et ont l'honneur de lui adresser la présente invitation à visiter l'Expression privée des* OBJETS D'ART DE L'EXTRÊME-ORIENT, *composant la collection des* GONCOURT.

Cette Exposition privée aura lieu les Dimanche 28 Février et Lundi 1er Mars, de 2 heures à 5 heures, dans les Galeries de M. S. BING, *rue de Provence, 22.* »